



AIG 高校生外交官プログラム渡米・日本プログラム紹介（現高1・2対象）

保険会社 AIG を母体とする AIG 外交官プログラム実行委員会が主催する渡米型と日本国内型の2種類のプログラムをご紹介します。両プログラムとも個人的費用を除いては移動・宿泊に伴う費用負担はありません。以下プログラム別に概要をお知らせします。

【渡米プログラム】

派遣人数：合計20名（男女各10名）

派遣先：ワシントン DC・ニューヨーク・プリンストン大学 など

期間：2023年7月16日（日）～8月1日（火）予定

7月16日にオリエンテーション会場集合、18日渡米、31日帰国、8月1日解散

訪問先：ツアーパート

ワシントン DC 国務省、国防総省、議会議事堂、IMF/世界銀行、議会図書館 など

ニューヨーク 国連、AIG、マンハッタン小学校ボランティア、9/11メモリアル、移民博物館、ミュージカルワークショップ、MoMA、大聖堂 など

エクステンジパート（23年度は感染防止の観点からホームステイは中止）

米国高校生とルームメイトとなり、プリンストン大学の寮で共同生活をしながら、様々なアクティビティを体験する。午前は語学と文化を学ぶクラス、午後はディスカッションを含むアクティビティや自国を紹介し合うプレゼンテーション、アメリカ文化体験（ハロウィン、プロム等）、スポーツ など

費用：集合・解散会場までの往復飛行機代、新幹線代、米国渡航費、米国内交通費、滞在費、食費、教材費、プログラム参加に関する費用は主催者側の負担

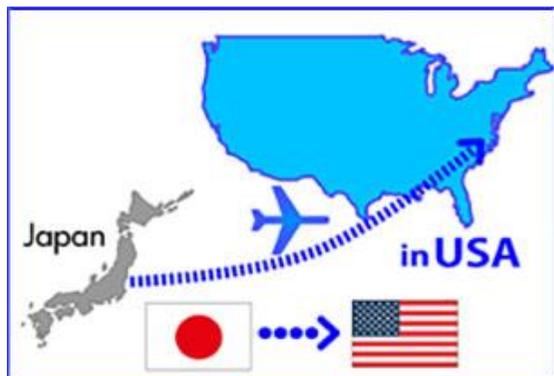
但し、プログラム参加時の在来線・バスなどの交通費、パスポート・ESTAの申請費用、新型コロナウイルス検査費用、予防接種、買い物、小遣い、電話代等は参加者負担

応募資格（一部省略して列挙します）：

- ① 1校からの応募は日本プログラムと合わせ4名まで（共学校の場合は男女各2名まで）
- ② 高等学校在学中で、所属学校長の推薦を受けた者
- ③ 2023年7月現在で高等学校2学年又は3学年に在学している者
- ④ 保護者の承諾を受けた者
- ⑥ 合格後の準備期間からプログラム終了後の解散まで全てのプログラムに他の参加者と一緒に参加できる者（合格後オンラインでの準備に参加できない方は参加を取り消す場合もあります）
- ⑦ 6月末までに新型コロナワクチンを3回接種完了できる者
（状況によっては追加のPCR検査の実施のお願いをする場合も有り。今後の政府の判断により変更が生じる可能性も有り。）
- ⑩ 中学入学以降合計365日以上海外滞在経験を持たない者（留学・旅行も含む）

選考方法

- ①一次選考 書類選考 3月初旬までに学校・応募者宛にメールで通知
- ②二次選考 面接（日本語・英語）・グループ実習
3月18日（土）・19日（日）・21日（火・祝）のいずれか指定された1日
（生徒側では選択不可）に Web 会議ツールを使用しオンラインで実施
結果は4月初旬に学校・応募者にメールで通知
(以下は公式 HP より転載)



【日本プログラム】

人数：合計16名（男女各8名）

会場：関西地区宿泊研修施設

期間：2023年7月20日（木）～7月31日（月）予定

7月20日（木）昼頃関西地区宿泊研修施設に集合、31日（月）午前以最寄り新幹線駅もしくは伊丹空港にて解散

内容：米国より選抜された高校生と日本国内での共同生活を通し、「高校生外交官」として国際交流を体験

クラブ活動：日米参加者が日本文化のクラブに所属。日本側参加者がリードし米国側参加者が日本文化を習得する。（例：茶道、書道、舞踊、剣道、柔道、空手、百人一首など）

ディスカッション：日米参加者が様々な議題について議論する（例：教育、政治、社会問題、戦争と平和、アイデンティティと価値観、キャリアプラン など）

プレゼンテーション：日米参加者がテーマ別のグループに分かれ、自国を英語で紹介し合う（例：教育、政治、地域性、社会問題 など）

語学・文化クラス：米国の教師による、語学と文化を学ぶクラス

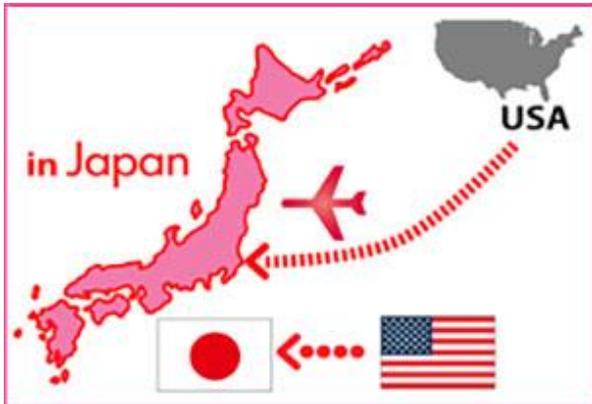
その他(過去の例)：京都史跡巡り、アメリカ文化体験、ダンスパーティー、スポーツ大会など

費用：プログラム参加時の往復飛行機代、新幹線代、滞在費、食費、教材費、プログラム参加に関する費用は主催者側の負担
但し、プログラム参加時の在来線・バスなどの交通費、新型コロナ検査費用、予防接種、買い物、小遣い、電話代等は参加者負担

応募資格：渡米プログラムと基本的には共通ですが、日本プログラムについては「海外渡航経験は問わない」という記述があります。

選考方法：渡米プログラムと日程・内容共に共通

(以下は公式 HP より転載)



校内募集スケジュール

渡米プログラムと日本プログラムはどちらか一方を選択するだけでなく、併願することも可能です。1校から上限4名までという制限があるために応募状況によっては校内選考が必要になります。その後生徒によるエッセイの執筆・保護者同意書・学校長推薦書の作成・送信という手続きを踏む必要があるために、本校では以下のスケジュールで準備を進めます。期限を1日/1分でも守れない場合は校内選考のチャンスを失うものをご理解下さい。

校内エントリー：1月13日（金）午前8時（時間厳守）までにグローバル教育部（2号館2階）に下記の書面を提出して下さい。

提出物：A4サイズ of 用紙に以下の要件を全て満たして提出して下さい。PC・手書きいずれでも結構です。

①クラス・番号・氏名②メールアドレス③渡米・日本プログラムどちらを選択するか又は併願を希望するか意思表示④保護者の承諾は得られているかの確認（確認が取れているなら「確認済み」と記入）⑤プログラム参加への動機・意欲（字数は問わない）

選考：応募人数に応じて選考を実施します。

プログラムの詳細は以下の公式 HP からご確認下さい。プログラムの内容・形態については新型コロナウイルスの感染状況及び国際情勢によって変更・中止の場合もあるとのことです。

[AIG 高校生外交官プログラム | AIG High School Diplomats](#)

2022年度フィールドネット・ラウンジ企画「フィールドワークってなんだ?: 異分野方法論談議 (霊長類学・言語学・歴史学・人類学)」 (主に高校生対象)

東京外国語大学より上記オンライン企画のお知らせが届きました。文系・理系という枠を超えて大学ではどんな研究が行われているかを知るいい機会です。中学の卒論執筆のため規模は小さいものの多くの生徒諸君がフィールドワークの経験をしたことと思います。その経験を通じて本に書いてあることと現場で起きていることの違いを感じたかもしれません。今回は高校ではあまり履修しない学問分野における研究者の話が聞けるようです。尖った興味を持つ生徒諸君はこの機会を活用してみたいはいかがでしょうか。事前申し込みが必要となりますので手続きは各自で行なって下さい。上に主に高校生対象と書きましたが、公式HPでは「高校生に限る」という記述はないのでもし中学生で聞いてみたいという生徒がいればぜひ挑戦してみてください。

開催日：2023年01月09日(月)

開催時間：13:00-16:00

場所：オンライン会議室

【オープニング】

13:00-13:05 フィールドネットからの挨拶

谷口晴香 (AA 研) 「趣旨説明」

【第一部】各分野のフィールドワークの紹介

霊長類学のフィールドワーク紹介

13:05-13:25 谷口晴香 (AA 研)

「積雪地のニホンザルのアカンボウはどのように冬を越すのだろうか？」

13:25-13:45 杉浦秀樹 (京都大学野生動物研究センター)

「ニホンザルの声のやりとりを野外で調査する」

言語学のフィールドワーク紹介

13:45-14:00 青井隼人 (東京外国語大学) 「彼らはどうやってその母音を発音しているのか：沖縄県宮古郡多良間村での器械音声学的調査」

14:00-14:15 古本真 (AA 研)

「とりあえず行ってから考える：ザンジバルでのスワヒリ語の方言調査」

14:15-14:20 休憩

歴史学のフィールドワーク紹介

14:20-14:40 守田まどか (AA 研) 「イスタンブルで史料の海にとびこむ」

人類学のフィールドワーク紹介

14:40-15:00 吉田優貴 (AA 研)

「ケニアの聾者／聴者との民族誌的フィールドワーク〈私の場合〉」

15:00-15:10 休憩

【第二部】談議

15:10-16:00 質疑応答と談議

使用言語：日本語

参加費：無料

事前登録が必要です。

参加ご希望の方は、以下から事前のご登録をお願いします。

申し込み期限：2023年1月7日（土）

[ミーティング登録 - Zoom](#)

主催：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所（AA 研）

東京外国語大学フィールドサイエンスcommons TUFiSCo



東京外国語大学公式 HP 「Fieldnet とは」 から転載

2023年

1月9日

[月・祝日]

13:00～16:00

事前申し込みが必要です

申込期限

2023年

1月7日[土]

まで

お申し込みはコチラから



<https://ui2web.zoom.us/join?meeting=9231516229&pwd=8A3Zm41Mg7Tn1564>

言語学

霊長類学

写真提供：国立民族学博物館

2022年度フィールドネット・ラウンジ企画セミナー

フィールドワーク
ってなんだ?

異分野方法論談議

(霊長類学・言語学・歴史学・人類学)



写真提供：A.A.B.

歴史学

人類学

本ラウンジでは、四つの分野

(霊長類学、言語学、歴史学、人類学)の研究者が
自分のフィールドワークについて紹介しながら

談議し、相互理解をすすめ、

異分野協働の足掛かりをつくることを目的としています。

Zoomによるオンライン開催

使用言語：日本語

参加費：無料

アドバイザー：足立薫(京都産業大学)

13:00 「フィールドネットからの挨拶」
～13:05 「趣旨説明」 谷口晴香 (AAB)

【第一部】各分野のフィールドワークの紹介

霊長類学のフィールドワーク紹介

13:05 「積雪地のニホンザルのアコンボウは
どのように冬を越すのだろうか？」
～13:25 谷口晴香 (AAB)

13:25 「ニホンザルの声のやりとりを野外で調査する」
～13:45 杉浦秀樹 (京都大学野生動物研究センター)

言語学のフィールドワーク紹介

13:45 「彼らはどうやってその母音を発音しているのか：
～14:00 沖縄県宮古郡多良間村での器械音声学の調査」
青井華人 (東京外国語大学)

14:00 「とりあえず行ってから考える：
～14:15 ザンジバルでのスワヒリ語の方言調査」
古本真 (AAB)

歴史学のフィールドワーク紹介

14:20 「イスタンブルで史料の海にとびこむ」
～14:40 守田まさか (AAB)

人類学のフィールドワーク紹介

14:40 「ケニアの聾者／聴者との
～15:00 民族誌的フィールドワーク〈私の場合〉」
吉田康貴 (AAB)

【第二部】談議

15:10 質疑応答と談議
～16:00

談議

共催

□ 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 (AAB) □ 東京外国語大学フィールドエシオニクスセンター (TUFIC)

□ 科学研究費補助金基盤研究 (S) 「社会性の起源と進化：人類学と霊長類学の協働に基づく人類進化理論の構築」 (研究代表者：岡倉孝史、課題番号：19H05581)

□ 科学研究費補助金基盤研究 (C) 「ケニアの聾／聴者の相互行為に際するヴィジュアル・メソッドを用いた民族誌的研究」 (研究代表者：吉田康貴、課題番号：20K01189)

問い合わせ先：谷口晴香 taniguchi[at]jaa.tufs.ac.jp ([at]を@に変えて送信してください)

今回のイベント紹介ポスター画像